

理学療法科 (3 学年)

2025 年度 シラバス目次

科目名	項
理学療法総合演習	2
臨床実習Ⅲ	11
臨床実習セミナーⅡ	13

科目名	項

学科・年次	理学療法科 3年次
科目名	理学療法総合演習
担当者	学内常勤
単位数（時間数）	2単位（60時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 専門PT学 医歯薬出版株式会社 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント PT治療学 医歯薬出版株式会社 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 基礎医学 医歯薬出版株式会社 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 臨床医学 医歯薬出版株式会社

授業概要と目的
臨床経験のある理学療法士が担当し、総合臨床実習前に実習で体験する問題について例題を参考に討論を行い、対処方法について学ぶ。また、総合実習終了後には学生が各施設で体験した総合臨床実習において、見学・評価・治療等を担当した様々な症例の理学療法に各自で考察を加え、治療の問題点や具体的な改善方法について臨床場面を再現した状態で討論を行うことで、各種の障害に対する理学療法の科学的な思考方法を教授する。さらにその経験をもとに国家試験専門科目問題の解答の導き方のみに限らず、臨床現場で臨床家として考察すべき事柄を理解、実践できることを目的とする。 なお、理学療法士として、病院等で臨床経験のある教員がその経験を活かして授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「症例研究各論」 一般目標 1. 関節リウマチの概要を理解する 2. 関節リウマチの理学療法に必要な評価項目について理解する	「関節リウマチ、上肢の関節疾患の理学療法について」 到達目標 1. 関節リウマチの病態について説明できる 2. 関節リウマチの理学療法に必要な評価項目の説明できる	担当教員
2	後期	「症例研究各論」 一般目標 1. 関節リウマチ患者へのADL指導について理解する 2. 関節リウマチ患者に行う理学療法について理解する	「関節リウマチ、上肢の関節疾患の理学療法について」 到達目標 1. 関節リウマチ患者へのADL指導について説明できる 2. 関節リウマチ患者の理学療法について説明できる	担当教員

		3. 上肢の関節疾患の理学療法について理解する	3. 上肢の関節疾患の理学療法について説明できる	
3	後期	「症例研究各論」 一般目標 1. 変形性膝関節症の概要を理解する 2. 変形性膝関節症の理学療法に必要な評価項目について理解する 3. 変形性膝関節症に行う理学療法について理解する	「変形性膝関節症理学療法について」 到達目標 1. 変形性膝関節症の病態について説明できる 2. 変形性膝関節症の理学療法に必要な評価項目について説明できる 3. 変形性膝関節症の運動療法について説明できる	担当教員
4	後期	「症例研究各論」 一般目標 1. 変形性股関節症の概要を理解する 2. 変形性股関節症の理学療法に必要な評価項目について理解する 3. 変形性股関節症に行う理学療法について理解する	「変形性股関節症理学療法について」 到達目標 1. 変形性股関節症の病態について説明できる 2. 変形性股関節症の理学療法に必要な評価項目について説明できる 3. 変形性股関節症の運動療法について説明できる	担当教員
5	後期	「症例研究各論」 一般目標 1. 上腕・前腕・大腿骨折について概要を理解する 2. 上腕・前腕・大腿骨折の理学療法に必要な評価項目について理解する 3. 上腕・前腕・大腿骨折の理学療法について理解する 4. 骨折の合併症について理解する	「骨折の理学療法について」 到達目標 1. 大腿骨頸部骨折の病態について説明できる 2. 大腿骨頸部骨折の理学療法に必要な評価項目について説明できる 3. 大腿骨頸部骨折患者の理学療法について説明できる 4. 上腕骨骨折の病態について説明できる 5. 上腕骨骨折の理学療法に必要な評価項目について説明できる 6. 上腕骨骨折患者の理学療法について説明できる	担当教員

			7. 橈骨遠位端骨折の病態について説明できる 8. 橈骨遠位端骨折の理学療法に必要な評価項目について説明できる 9. 橈骨遠位端骨折患者の理学療法について説明できる 10. 骨折の合併症について説明できる	
6	後期	「症例研究各論」 一般目標 1. 骨折の分野についてグループワークを通して理解を深め、他者に説明ができるようになる	「骨折の理学療法について」 到達目標 1. 大腿骨頸部骨折の病態について記述でき他者に説明できる 2. 大腿骨頸部骨折の理学療法に必要な評価項目について記述でき他者に説明できる 3. 大腿骨頸部骨折患者の理学療法について記述でき他者に説明できる 4. 上腕骨骨折の病態について記述でき他者に説明できる 5. 上腕骨骨折の理学療法に必要な評価項目について記述でき他者に説明できる 6. 上腕骨骨折患者の理学療法について記述でき他者に説明できる 7. 橈骨遠位端骨折の病態について記述でき他者に説明できる 8. 橈骨遠位端骨折の理学療法に必要な評価項目について記述でき他者に説明できる 9. 橈骨遠位端骨折患者の理学療法について記述でき他者に説明できる 10. 骨折の合併症について記述でき他者に説明できる	担当教員
7	後期	「症例研究各論」 一般目標 1. スポーツ障害（外傷）の概要を理解する 2. スポーツ障害（外傷）の理学療法に必要な評価項目について理解する	「スポーツ障害（外傷）の理学療法について」 到達目標 1. スポーツ障害（外傷）の病態について説明できる 2. スポーツ障害（外傷）の理学療法に必要な評価項目について説明できる	担当教員

		3. スポーツ障害（外傷）に行う理学療法について説明できる	3. スポーツ障害（外傷）の理学療法について説明できる	
8	後期	「症例研究各論」 一般目標 1. スポーツ障害（外傷）の分野についてグループワークを通して理解を深め、他者に説明ができるようになる	「スポーツ障害（外傷）の理学療法について」 到達目標 1. スポーツ障害（外傷）の病態について記述でき他者に説明できる 2. スポーツ障害（外傷）の理学療法に必要な評価項目について記述でき他者に説明できる 3. スポーツ障害（外傷）の理学療法について記述でき他者に説明できる	担当教員
9	後期	「症例研究各論」 一般目標 1. 脊椎疾患の概要を理解する 2. 脊椎疾患の理学療法に必要な評価項目について理解する 3. 脊椎疾患に行う理学療法について理解する 4. 小児整形疾患の理学療法について理解する	「脊椎疾患、小児整形疾患の理学療法について」 到達目標 1. 脊椎疾患の病態について説明できる 2. 脊椎疾患の理学療法に必要な評価項目について説明できる 3. 脊椎疾患の理学療法について説明できる 4. 小児整形疾患の理学療法について説明できる	担当教員
10	後期	「症例研究各論」 一般目標 1. 脊椎疾患の分野についてグループワークを通して理解を深め、他者に説明ができるようになる	「脊椎疾患、小児整形疾患の理学療法について」 到達目標 1. 脊椎疾患の病態について記述でき他者に説明できる 2. 脊椎疾患の理学療法に必要な評価項目について記述でき他者に説明できる 3. 脊椎疾患の理学療法について記述でき他者に説明できる 4. 小児整形疾患の理学療法について記述でき他者に説明できる	担当教員

11	後期	「症例研究各論」 一般目標 1. 脳血管障害の評価手段について理解する	「脳血管障害における評価法について」 到達目標 1. Brunstrom 法ステージ法に対応した理学療法について説明できる 2. 脳血管障害における画像所見について説明できる 3. Barthel Index について説明できる 4. SIAS について説明できる	担当教員
12	後期	「症例研究各論」 一般目標 1. 脳血管障害の評価手段についてグループワークを通して理解を深め, 他者に説明ができるようになる	「脳血管障害における評価法について」 到達目標 1. Brunstrom 法ステージ法に対応した理学療法について記述でき他者に説明できる 2. 脳血管障害における画像所見について記述でき他者に説明できる 3. Barthel Index について記述でき他者に説明できる 4. SIAS について記述でき他者に説明できる	担当教員
13	後期	「症例研究各論」 一般目標 1. 脳血管障害の基本介入手段について理解する	「脳血管障害の理学療法について」 到達目標 1. 急性期の理学療法について説明できる 2. 片麻痺に対する理学療法について説明できる 3. 痙性麻痺に対する理学療法について説明できる 4. 片麻痺患者の ADL 動作について説明できる 5. 片麻痺患者の応用歩行について説明できる 6. 片麻痺患者の ADL 指導について説明できる	担当教員
14	後期	「症例研究各論」 一般目標 1. 脳血管障害の基本介入手段についてグループワークを	「脳血管障害の理学療法について」 到達目標 1. 急性期の理学療法について記述でき他者に説明できる	担当教員

		通して理解を深め, 他者に説明ができるようになる	2. 片麻痺に対する理学療法について記述でき他者に説明できる 3. 痙性麻痺に対する理学療法について記述でき他者に説明できる 4. 片麻痺患者の ADL 動作について記述でき他者に説明できる 5. 片麻痺患者の応用歩行について記述でき他者に説明できる	
15	後期	「症例研究各論」 一般目標 1. 脳血管障害の臨床的介入について理解する	「脳血管障害の理学療法について」 到達目標 1. 症状別の理学療法について説明できる 2. 画像所見より病態の説明できる 各時期における理学療法介入について説明できる	担当教員
16	後期	「症例研究各論」 一般目標 1. 脳血管障害の臨床的介入についてグループワークを通して理解を深め, 他者に説明ができるようになる	「脳血管障害の理学療法について」 到達目標 1. 症状別の理学療法について記述でき他者に説明できる 2. 画像所見より病態について記述でき他者に説明できる 3. 各時期における理学療法介入について記述でき他者に説明できる	担当教員
17	後期	「症例研究各論」 一般目標 1. 高次脳機能障害の概要を理解する 2. 高次脳機能障害の理学療法に必要な評価項目について理解する 3. 高次脳機能障害に行う理学療法について理解する	「高次脳機能障害の理学療法について」 到達目標 1. 高次脳機能障害の病態について説明できる 2. 高次脳機能障害の理学療法に必要な評価項目について説明できる 3. 高次脳機能障害の理学療法について説明できる	担当教員
18	後期	「症例研究各論」 一般目標 1. 高次脳機能障害の分野についてグループワークを通して理解を深め, 他者に説明ができるようになる	「高次脳機能障害の理学療法について」 到達目標 1. 高次脳機能障害の病態について記述でき他者に説明できる 2. 高次脳機能障害の理学療法に必要な評価項目について記述でき他者に説明できる	担当教員

			3. 高次脳機能障害の理学療法について 記述でき他者に説明できる	
19	後期	「症例研究各論」 一般目標 1. 間脳、脳幹部、小脳障害の概要を理解する 2. 間脳、脳幹部、小脳障害の理学療法に必要な評価項目について理解する 3. 間脳、脳幹部、小脳障害に行う理学療法について説明できる	「脳血管障害の理学療法について」 到達目標 1. 間脳、脳幹部、小脳障害の病態について説明できる 2. 間脳、脳幹部、小脳障害の理学療法に必要な評価項目について説明できる 3. 間脳、脳幹部、小脳障害の理学療法について説明できる	担当教員
20	後期	「症例研究各論」 一般目標 1. 間脳、脳幹部、小脳障害の分野についてグループワークを通して理解を深め、他者に説明ができるようになる	「脳血管障害の理学療法について」 到達目標 1. 間脳、脳幹部、小脳障害の病態について記述でき他者に説明できる 2. 間脳、脳幹部、小脳障害の理学療法に必要な評価項目について記述でき他者に説明できる 3. 間脳、脳幹部、小脳障害の理学療法について記述でき他者に説明できる	担当教員
21	後期	「症例研究各論」 一般目標 1. パーキンソン病の概要を理解する 2. パーキンソン病の理学療法に必要な評価項目について理解する 3. パーキンソン病患者に行う理学療法について理解する	「パーキンソン病の理学療法について」 到達目標 1. パーキンソン病の病態について説明できる 2. パーキンソン病の理学療法に必要な評価項目の説明ができる 3. パーキンソン病患者に対する歩行訓練について説明ができる 4. Hoehn&Yahr の重症度分類について説明できる 5. Hoehn&Yahr の重症度分類に対応した理学療法について説明できる	担当教員
22	後期	「症例研究各論」 一般目標 1. パーキンソン病の評価、理学療法についてグループワー	「パーキンソン病の理学療法について」 到達目標 1. パーキンソン病の病態について記述でき他者に説明できる	担当教員

		クを通して理解を深め, 他者に説明ができるようになる	2. パーキンソン病の理学療法に必要な評価項目について記述でき他者に説明できる 3. パーキンソン病患者に対する歩行訓練について記述でき他者に説明できる 4. Hoehn&Yahr の重症度分類について記述でき他者に説明できる 5. Hoehn&Yahr の重症度分類に対応した理学療法について記述でき他者に説明できる	
23	後期	「症例研究各論」 一般目標 1. 各変性疾患の病態を理解する 2. 各変性疾患の評価方法を理解する 3. 各変性疾患の運動療法を理解する	「変性疾患の理学療法について」 到達目標 1. 脊髄小脳変性症、多発性硬化症、筋萎縮性硬化症の病態について説明できる 2. 脊髄小脳変性症、多発性硬化症、筋萎縮性硬化症の理学療法に必要な評価項目の説明ができる 3. 脊髄小脳変性症、多発性硬化症、筋萎縮性硬化症の理学療法について説明できる	担当教員
24	後期	「症例研究各論」 一般目標 1. 変性疾患の分野についてグループワークを通して理解を深め、他者に説明ができるようになる	「変性疾患の理学療法について」 到達目標 1. 脊髄小脳変性症、多発性硬化症、筋萎縮性硬化症の病態について記述でき他者に説明できる 2. 脊髄小脳変性症、多発性硬化症、筋萎縮性硬化症の理学療法に必要な評価項目について記述でき他者に説明できる 1. 脊髄小脳変性症、多発性硬化症、筋萎縮性硬化症の理学療法について記述でき他者に説明できる	担当教員
25	後期	「症例研究各論」 一般目標 1. 脊髄損傷の各髄節における理学療法について理解する	「脊髄損傷の理学療法について」 到達目標 1. 第 5 頸髄損傷の理学療法について説明できる	担当教員

			2. 第 6 頸髄損傷の理学療法について説明できる 3. 第 7 頸髄損傷の理学療法について説明できる 4. 胸髄損傷の理学療法について説明できる 5. 腰髄損傷の理学療法について説明できる	
26	後期	「症例研究各論」 一般目標 1. 脊髄損傷の分野についてグループワークを通して理解を深め, 他社に説明ができるようになる	「脊髄損傷の理学療法について」 到達目標 1. 第 5 頸髄損傷の理学療法について記述でき他者に説明できる 2. 第 6 頸髄損傷の理学療法について記述でき他者に説明できる 3. 第 7 頸髄損傷の理学療法について記述でき他者に説明できる 4. 胸髄損傷の理学療法について記述でき他者に説明できる 5. 腰髄損傷の理学療法について記述でき他者に説明できる	担当教員
27	後期	「症例研究各論」 一般目標 1. 脊髄損傷の理学療法に必要な評価項目について理解する 2. 脊髄損傷患者の合併症について理解する	「脊髄損傷の理学療法について」 到達目標 1. 脊髄損傷の理学療法に必要な評価項目について説明できる 2. 脊髄損傷患者の合併症について説明できる	担当教員
28	後期	「症例研究各論」 一般目標 1. 脊髄損傷の分野についてグループワークを通して理解を深め, 他者に説明ができるようになる	「脊髄損傷の理学療法について」 到達目標 1. 脊髄損傷の理学療法に必要な評価項目について記述でき他者に説明できる 2. 脊髄損傷患者の合併症について記述でき他者に説明できる	担当教員
29	後期	「症例研究各論」 一般目標 1. 末梢神経障害の概要を理解する 2. 末梢神経障害の理学療法に必要な評価項目について理解する	「末梢神経障害の理学療法について」 到達目標 1. 末梢神経障害の病態について説明できる 2. 末梢神経障害の理学療法に必要な評価項目について説明できる	担当教員

		3. 末梢神経障害に行う理学療法について理解する	3. 末梢神経障害患者の理学療法について説明できる	
30	後期	「症例研究各論」 一般目標 1. 末梢神経障害の分野についてグループワークを通して理解を深め、他者に説明ができるようになる	「末梢神経障害の理学療法について」 到達目標 1. 末梢神経障害の病態について記述でき他者に説明できる 2. 末梢神経障害の理学療法に必要な評価項目について記述でき他者に説明できる 3. 末梢神経障害の理学療法について記述でき他者に説明できる	担当教員
成績評価方法		筆記試験（100%）		
準備学習など		1・2年次に修了をした専門科目の内容を予習しておくこと。		
留意事項		受け身な態度ではなく、積極的に担当教員に働きかけ、疑問や問題を解決すること。 グループワークが主軸となる取り組みとなるため、知識のアウトプットを積極的に行うこと。		

学科・年次	理学療法科 3 年
科目名	臨床実習Ⅲ（総合）
担当者	学内常勤
単位数（時間数）	16 単位（720 時間）
学習方法	実習（医療・介護施設における実習）
教科書・参考書	

授業概要と目的
3 年間の学習の総決算として、臨床実習指導者のもとで、理学療法の基本的技能の習得と実践を行い、評価・治療計画・治療の実際の業務を理解する。医療専門職として責任ある態度・行動をとり、職業人としての在り方を学ぶ。医療施設にて臨床経験のある理学療法士がその経験を活かし実習を進めていく

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
-----------	-----	---------------------	-----------------------	-----

臨床実習 Ⅲ	通年	「臨床実習Ⅲ（総合）」 一般目標 1. 各臨床実習施設における理学療法および理学療法士の役割と機能を学ぶとともに、管理・運営業務を学ぶ。 2. 臨床実習指導者の指導・援助のもとに、実習生が対象児・者を全体的に把握するために必要な評価方法を選択し、理学療法を計画・実施し、その記録報告、再評価という一貫した理学療法過程を修得する。 3. 他の職員とのチームワークを体得する。 4. 理学療法を学ぶ学生として、今後の進むべき方向などを考える。 5. 前職業人としての基本的態度を習得し、理学療法士としてふさわしい資質の向上・充実をはかる。	「臨床実習Ⅲ（総合）」 到達目標 1. 対象者や他部門から必要な情報を収集できる。 2. 評価技法の実施をすることができる。 3. 全体像を把握し問題点を抽出することができる。 4. 評価中、安全性を確保できる。 5. 適切な記録を書くことができる。 6. 治療計画を立てることができる。 7. 事前に必要な物品を準備することができる。 8. 治療内容を対象者に説明することができる。 9. 計画に沿った治療内容を実施することができる。 10. 治療中安全性を確保できる。 11. 各種提出物が期限内に提出することができる。 12. 記述・口頭での報告が適切にできる。 13. 実習に対して意欲的・積極的に学習できる。 14. 職場内での人間関係を円滑に保つことができる。 15. 日常の規律を自覚し、守っていく態度をとれる。 16. 感情・情緒面で安定した態度をとれる。 17. 対象者の人権を尊重できる。 18. 守秘義務を守ることができる。 19. 対象者との関係を成立させることができる。 20. 緊急時又は問題解決ができない時に援助を求めることができる。	実習施設の 実習指導者、 専任教員
成績評価方法	実習指導者によって実習到達目標に基づいた評価点と学内で実施する実習後評価の評価点を平均して可否を判定する。			
準備学習など	臨床実習前には3年次までに学んだ内容全てについて復習するとともに、患者・利用者、施設の指導者など関係者すべてと円滑なコミュニケーションが取れるようにしておくこと。			
留意事項	受け身的な態度ではなく、積極的に指導者等に働きかけ、疑問や問題を解決すること。			

学科・年	理学療法科 3年次
科目名	臨床実習セミナーⅡ
担当者	学内常勤
単位数（時間数）	1単位（45時間）
学習方法	学内実習・演習
教科書・参考書	

授業概要と目的
臨床実習にて、理学療法士として必要な接遇、対人コミュニケーション、基本的な評価技術能力を身に付けることができたかを確認する。そのため、各実習にてどのように理学療法評価や臨床推論等を考察・実施したかを報告する。さらに、理学療法評価だけでなく、基礎理学療法、理学療法治療学、地域理学療法など臨床実習で培った経験の整合性を高める。 医療・介護施設にて臨床経験のある理学療法士がその経験を活かし実習・演習を進めていく

日	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1～2	後期	「実習報告」 一般目標 1. 臨床実習で学んだ理学療法評価法について理解できる 2. 臨床実習で学んだ理学療法治療学について理解できる 3. 臨床実習で経験した症例に対する臨床推論について理解できる	「実習報告」 到達目標 1. 臨床実習で学んだ理学療法評価法について説明できる 2. 臨床実習で学んだ理学療法治療学について説明できる 3. 臨床実習で経験した症例に対する臨床推論について説明できる	担当教員
3～5	後期	「まとめ」 一般目標 1. 基礎理学療法（管理・運・倫理など）を理解できる。 2. 疾患の病態やリスクを理解し、適切な理学療法評価項目を選択することができる。 3. 基本的な理学療法治療方法について、それぞれの疾患に対し選択・判断できるようになる。	「まとめ」 到達目標 1. 基礎理学療法の内容を選択・説明することができる。 2. 各疾患、対象者に対する理学療法評価を選択・説明できる 3. 理学療法治療方法やリスクについて、選択・説明できる。 4. 介護保険制度、訪問理学療法などについて、選択・説明できる。	担当教員

		4. 地域理学療法分野の法制 度や、地域包括ケアシス テムと理学療法のかかわりに ついて理解できる。		
成績評価方法	グループワーク：筆記試験（100%）			
準備学習など	臨床実習Ⅲで学んだ内容全てについて復習する。			
留意事項	受け身的な態度ではなく、積極的に担当教員に働きかけ、疑問や問題を解決すること。			